

令和5年度第1回大分市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和5年8月23日(水) 13:15~14:00

2. 場 所 議会棟4階 全員協議会室

3. 出席者

○総合教育会議構成員

大分市長	足立 信也
大分市教育委員会教育長	佐藤 光好
大分市教育委員会委員	古城 和敬
大分市教育委員会委員	上杉 美穂子
大分市教育委員会委員	古城 一
大分市教育委員会委員	廣津留 すみれ
大分市教育委員会委員	岡田 史絵

○事務局

企画部長	吉良 昌昭	教育部長	高田 隆秀
子どもすこやか部長	高橋 賢次	教育監	野田 秀一
企画部審議監	正池 功	教育部次長	永田 浩貴
企画部審議監	井原 正文	教育部次長兼学校施設課長	佐藤 祐一
企画課長	藤田 泰次郎	大分市美術館副館長兼美術振興課長	水田 美幸
企画部次長兼スポーツ振興課長	村田 潤	教育総務課長	安東 英児
公園緑地課長	平川 義文	学校教育課長	江隈 英明
商工労政課長	甲斐 秀樹	体育保健課長	三島 浩昭
文化振興課長	若林 正策	人権・同和教育課長	高橋 秀徳
国際課長	岡本 健	社会教育課長	足立 美乃里
生活福祉課長	尾上 典章	文化財課参事	塩地 潤一
子ども企画課長	永野 謙吾	大分市教育センター所長	小池 桂子
子育て支援課長	安達 浩		
子ども入園課長	幸野 剛治		
保育・幼児教育課長	梶取 隆之		
障害福祉課長	田崎 敢		

4. 次 第 (1) 開 会

(2) 議 事

①令和5年度「大分市教育大綱・教育ビジョン」関連事業について

(3) 閉 会

企画部長	<p>只今から、令和5年度第1回大分市総合教育会議を開会いたします。会議の進行を務めさせていただきます、企画部長の吉良でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、はじめに足立市長からご挨拶申し上げます。</p>
市長	<p>皆様、こんにちは。本日は、令和5年度第1回大分市総合教育会議にお集まりいただくとともに、日頃より大分市の教育行政並びに教育委員会の運営に携わっていただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>また、7月14日付で、岡田史絵（おかだふみえ）さんが新たに教育委員に就任されました。岡田委員、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本市では、「大分市教育大綱」に基づき、学校、家庭、地域と行政が一体となって、次代を担う子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランス良く育成し、生きる力をはぐくむ教育を展開するとともに、学びの継続・学び直しを支援し、その成果を社会に生かしていく生涯学習の実現に向けた取組を進めております。</p> <p>私の家系は、代々小学校の先生であり、私自身は大学で10年間指導をしまいりました。自分なりの教育に関する考え方はありますが、これまでの大分市の取組を一層、推進していかなければなりません。また、現在の法律では、18歳で様々な責任を負うような形になっていますから「義務教育の間に生きる力が身に付く」これが何よりも大事だと思っております。そのような面で、これからの教育は、福祉・保健、子育て、地域の活躍、コミュニティ等の分野とも連携していかなければなりませんし、その中でも教育分野の重要性はますます高まるものと考えております。</p> <p>本日の議題は、令和5年度「大分市教育大綱・教育ビジョン」関連事業についてでございます。皆様方の忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。以上で、開会のご挨拶といたします。よろしくお願いいたします。</p>
企画部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議事に入らせていただきます。議事の進行につきましては、本会議の議長であります足立市長にお願いいたします。</p>
市長	<p>それでは早速、議事に入らせていただきます。令和5年度「大分市教育大綱・教育ビジョン」関連事業について、事務局から説明をお願いします。</p>
企画課長	<p>企画課長の藤田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>令和5年度「大分市教育大綱・教育ビジョン」関連事業についてご説明</p>

<p>教育総務課長</p>	<p>いたします。右上に「資料1」と書かれたA3の資料をご覧ください。  恐れ入りますが、着座にてご説明させていただきます。</p> <p>こちらの資料は、大分市教育大綱・大分市教育ビジョンにおける基本方針ごとに教育大綱における目標、教育ビジョンにおける重点施策に関連する事業についてまとめたものになります。本日はこれら関連事業のうち新規事業、拡充事業について主なものをご説明させていただきます。なお、資料右上に掲載しておりますが、事業名の頭に赤い星印を付けたものが新規事業、赤い四角が拡充事業、そして赤い丸印が継続の重点事業となります。これらの事業につきましては、市長部局と教育委員会が連携しながら進めておりますが、説明は初めに教育委員会で所管しております事業について行ったのち、市長部局で所管しております事業の順で説明をさせていただきますと思います。</p> <p>それでは資料の2ページをご覧ください。</p> <p>1ページ目でご覧いただいた事業の概要等をまとめた一覧表になります。新規事業、拡充事業、継続事業の重点事業の種別は上のほうに色分けしております。また、8番目や9番目の事業のように番号の下に（市）と記載した事業につきましては市長部局の事業でございます。それでは、最初に教育委員会の事業につきまして教育総務課長からご説明いたします。</p> <p>教育総務課の安東と申します。どうぞよろしく願いいたします。教育委員会が所管する事業についてご説明をいたします。</p> <p>資料の4ページをご覧ください。恐れ入りますが、着座にてご説明させていただきます。</p> <p>それでは4ページの15番、新規事業の「中学生学校給食無償化事業」につきましては、現在、学校給食費は日額で小学生265円、中学生275円、年間で約53,000円を保護者負担としておりますが、食費や教育費等の負担が大きくなる中学生を対象に、令和5年度3学期の給食提供分から学校給食費を無償化し、保護者の経済的負担を軽減することで、安心して子育てできる環境の整備を図るものでございます。</p> <p>次に、17番、新規事業の「大分市奨学資金拡充検討事業」につきましては、新たな奨学資金事業の導入に向けた調査・検討を行うもので、令和5年度は、高校生とその保護者を対象としたWebアンケート調査の実施や検討委員会を開催し、大分市で活躍する人材の育成・確保を目的とした新たな奨学資金事業の検討を進めていくこととしております。</p> <p>次に5ページをお開きください。</p> <p>5ページの26番、新規事業の「小中学校特別教室等空調設備整備事業」につきましては、特別教室及び体育館に空調設備の整備を行うもので、令和5年度は、PFI等導入可能性調査を行い、空調設備の整備期間や財政負</p>
---------------	--

<p>企画課長</p>	<p>担の縮減、民間活用の有効性等、効率的かつ効果的な整備手法を検討することとしております。</p> <p>次に、31番、新規事業の「学校施設使用許可事務委託事業」につきましては、従来学校が行ってきた学校施設使用許可事務を、学校以外の団体等に委託することで教職員の事務負担軽減を図るもので、学校施設を利用する関係団体へ説明を行い、順次業務委託を開始しているところであり、令和5年8月時点で10校が業務委託を実施しているところでございます。</p> <p>教育委員会の所管する事業についての説明は以上でございます。</p> <p>続きまして、市長部局の関連事業についてご説明させていただきます。資料の3ページにお戻りください。</p> <p>14番の新規事業「大分市にこにこ保育支援事業」につきましては、認可外保育施設を利用し、保育の必要がある第2子以降3歳未満児の保育料を無償化することで、多子世帯における保護者の経済的負担の軽減と子どもが健やかに生まれ育つ環境の整備を図るものでございます。今年度は認可外保育施設や保護者に対する広報、対象者の認定等に使用するシステムの開発を行うこととしており、令和6年4月の保育料無償化を目指し、準備を進めております。</p> <p>次に4ページをご覧ください。</p> <p>21番の拡充事業「子育て短期支援事業」につきましては、保護者が病気、出産、育児疲れ等で子どもの世話ができない場合に、子どもを一時的に預かるものでございます。</p> <p>市内の児童養護施設に対して、新たに事業専用の居室の整備や専従職員の配置に必要な費用の一部を支援することで、安定的なサービス提供体制の確保を図ってまいります。</p> <p>次に6ページをお開きください。</p> <p>44番の新規事業「えひめ・おおいた交流事業」につきましては、愛媛県南予地方と大分市を含む大分県中部・南部地域の18自治体において、「えひめ・おおいた交流事業実行委員会」を結成し、実行委員会事業の一つとして、小学生相互交流事業を実施しております。これは、お互いの地域で行うことができる各種体験や農家等での民泊体験を通じて、地域や同世代の方々との交流を促進し、児童の健全な育成を図ることを目的としております。</p> <p>今年度は、事前に応募をいただいた、両県の小学5・6年生36名が参加し、愛媛県の八幡浜市・西予市において、7月29日（土）から30日（日）の一泊二日の期間で、地引網体験やシーカヤック体験、それから民泊などを行いました。子ども達からは、「いろいろな体験ができ、県外の友達とも仲良くなれてとても良かった」との声をいただきました。また、保護者</p>
-------------	---

	<p>の方からは「子ども達がたくさんのお土産話をしてくれて、たくましくなって帰ってきた」との感謝の言葉をいただいております。</p> <p>次に8ページをお開きください。</p> <p>57番の新規事業「アーバンフェスタ開催事業」につきましては、スポーツ推進における新たな魅力創出を目的としたものでございます。東京2020オリンピック競技大会で若者を惹きつけたスケートボードやBMXなどの各種アーバンスポーツを体験できるイベントを、本年10月に「お部屋ラボ祝祭の広場」で開催する予定としております。</p> <p>議事1、令和5年度「大分市教育大綱・大分市教育ビジョン」関連事業の説明につきましては、以上でございます。</p>
市長	<p>ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明について、質問やご意見等はございますか。</p>
古城（一）委員	<p>ご説明ありがとうございました。教育委員の古城一と申します。</p> <p>4ページ17番「大分市奨学資金拡充検討事業」について、事業の概要に記載がございましたが、大分で活躍する人材の育成確保を目的にということでございます。大分の経済界で活躍できるように、大分市に戻ってきた場合には、奨学金の減免や何か優遇的な措置を考えておられるのでしょうか。もし、検討されていない場合は、経済界の一員として、是非お願いしたいところでございます。以上です。</p>
市長	<p>事務局、お願いいたします。</p>
学校教育課長	<p>学校教育課の江隈でございます。</p> <p>8月17日に第1回目となる検討委員会を開催しており、その中で、大分に戻ってくるために「支援要件のハードルを上げないようにした方がいい」などのご意見を頂きました。今後、制度設計に向けて、検討させていただきたいと思っております。</p>
古城（一）委員	<p>是非、前向きにご検討いただけたらと思っております。</p>
市長	<p>ありがとうございます。基本的な考え方としましては、給付型奨学金をどういう形で作るか、つまり社会に出た瞬間から借金を抱えるような生活をしないためにどうしたらいいか、それに加えて大分市に戻ってくる人をどうやって増やしていくか、ということです。そのために、私は「全国あるいは海外も含めて活躍した後に帰ってきてほしい」といった気持ちがありますので、それらを取り入れた制度にしたいと思っております。</p>

	<p>ます。</p>
古城（一）委員	<p>よろしく申し上げます。</p>
古城（和）委員	<p>Web アンケートの実施ということで、それはどういった方向性になっているのでしょうか。奨学金の制度内容に大きく関係すると思っておりますので、その辺も含めて状況を教えていただけますでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>学校教育課の江隈でございます。</p> <p>Web アンケートにつきましては、まず、保護者と現高校2年生・3年生を対象に調査を行いました。設問内容といたしましては、進路を決める場合に、「経済的な事情が含まれるか」といった内容をはじめ、「最終学歴となる学校を卒業したのちにどこの場所で働きたいか」、つまり県外なのか県内なのか、そして、最終的に「将来就きたい職業は何か」について、記述形式で書いていただき、それを私どもが整理させていただくという形をとっております。対象者の素直な気持ちとして、将来就きたい職業というものがアンケートを通じて、集約できたのではないかと思います。以上でございます。</p>
市長	<p>アンケートは今、結果の取りまとめの段階でございます。保護者、それから高校2、3年生から、それぞれ真理を突くような回答をいただけたと思っております。</p> <p>ほかにはございますか。</p>
上杉委員	<p>アンケートの対象は高校生ということですが、中学3年生で県外の高校を受験する生徒も結構いらっしゃいます。学業にしてもスポーツにしても、活躍してまた大分に帰ってきてもらえるような施策を今後考えていただきたいと思います。現在、児童生徒は小学6年生や中学3年生の卒業という節目で自分たちの将来を考えることが多いと思います。今後は、少し対象年齢を下げても良いのではないのでしょうか。高校2・3年生に対するアンケートと内容を変えても良いのではないかと思います。以上です。</p>
市長	<p>事務局、回答をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>本市では、キャリア教育を行っておりますので、将来に向けてキャリア形成というものを小さい時から考えている子どもたちもいると思いま</p>

<p>市長</p>	<p>す。今後は、奨学金の拡充も含め、高校生の奨学金制度につきまして、周知を図るとともに、ニーズを探ってまいりたいと思っております。ありがとうございます。</p>
<p>岡田委員</p>	<p>ありがとうございます。他はございますか。</p> <p>7月より委員を務めさせていただいております、岡田と申します。お願いいたします。</p> <p>16番（医療的ケア児に対する移動支援事業）ですが、特別支援学校の多くの児童生徒は、登下校時にスクールバスを利用していると思いますが、特に支援が必要な児童生徒は、保護者による送迎が大半を占めていると思います。通学を含めた移動の支援というのが介護者の負担軽減だけではなくて、子どもの教育の機会を守るためには重要な取組だと思いました。この事業についてですが、通学以外でも社会生活上必要不可欠な外出や通院も今後支援の対象となるのでしょうか。また、勤務時間の上限や上限金額は、世帯収入や障害者手帳の内容によって決めることになるのか教えていただきたいと思います。</p>
<p>障害福祉課長</p>	<p>障害福祉課の田崎でございます。</p> <p>この事業につきましては、医療的ケア児の保護者との意見交換を通じて、制度設計を行っておりまして、具体的な内容としましては、基本的には通学・通所の際に、喀痰吸入、酸素療法、人工呼吸器等により医療的ケアが必要となる障がい児を対象としております。現時点では、学校だけではなくて、施設に通う医療的ケア児についても対象と考えております。利用者負担につきましては、児童福祉法に基づく障がい児のサービスと同様に生活保護世帯、市民税非課税世帯につきましては、原則利用者負担なしで、その他の方につきましては、所得にもよりますが、月額約4,600円の負担をいただくように考えております。以上でございます。</p>
<p>岡田委員</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは、新規事業のうち保護者が負担する教育費の負担軽減施策について意見交換をさせていただきたいと思います。</p> <p>本市では保護者が負担する教育費の負担軽減にかかる事業として先ほど事務局から説明がありましたとおり、令和5年度の3学期から「中学生学校給食費無償化事業」を開始いたします。令和6年4月からは、認可外保育施設の第2子以降の3歳未満児を対象に保育料を助成する「に</p>

	<p>ここに「保育支援事業」を開始する予定としております。</p> <p>さらに、未来を担う若者の育成を目的に「奨学資金事業」の新設に向けた調査・研究を既に行っております。これらの事業は、「ひと」を真ん中に置いたまちづくりの中の「ひと」を育む施策で、高等教育まで切れ目のない支援を実現し、最優先課題である少子化対策に取り組んでまいりたいと考えています。少し追加させていただきますが、昨年12月に文部科学省が子どもの学習費調査を行いました。その結果、公立小学校は年間35万円台、3年前に比べて3万円増えている。それに対して公立中学校は53万8,700円で、3年前に比べて5万円増えている。19万円の差がございます。このようなことから、中学生の学習費負担が私にとっては大きな課題であると考え、給食費を今年度の3学期から無償化したいと考えております。そこで、皆様の教育費の負担軽減施策に対する考えをお伺いしたいと思います。</p>
古城（和）委員	<p>基本的には賛成の立場であります。ただ、教育にかかる全体予算が決まっている中、他の事業の将来性も考えなければなりません。そこに心配がありまして、現時点で、正確に話ができる段階ではないかと思いますが、うまく改善、シフトできるのか疑問に思っております。</p>
市長	<p>一般会計の全体のシフトの話、それから、部局の中でのシフトの話、どちらもあると思います。ただ、まずその事業をやらないことには、子どもたちの将来、希望が持てる社会になっていかないのではないかと思いますので、それにつきましては、これから職員と協議しながら、削れるところは削る、役割を終えた事業はやめていくというような態度でやっていきたいと思っております。</p>
古城（和）委員	<p>ありがとうございます。</p>
市長	<p>他にはいかがでしょうか。</p>
古城（一）委員	<p>先ほど、古城（和）委員からも話がありましたが、他にしわ寄せが及ばないか心配なところではございますが、現在、食費を含めて非常に物価が上がっております。来年度以降、生徒の数が減るといような部分と相殺できるような部分もあるのかもしれませんが、次年度以降、これからまたインフレが続くという傾向の中で、予算的に考えていることはございますでしょうか。</p>
市長	<p>先ほど申し上げたように、中学生は小学生より学習費が年間19万円も</p>



	<p>多く負担が生じているということです。まずはそこから重点的に支援をしていく方針であり、これを後退させる考えはございません。対象をどのようにして広げていくか、財政部局とも話し合いを重ねながら進めていきたいと思っております。十分な回答ではないと思っておりますが、それくらいの決意を持って進めてまいります。</p>
古城（一）委員	<p>市長の決意がよくわかりました。</p>
市長	<p>他にございませんか。今、教育費関係のことを申し上げましたが、それ以外でも結構です。</p>
廣津留委員	<p>教育委員の廣津留です。10番（ハーバード大学生との交流事業）の事業につきまして、この前、取組を実施したばかりですので、この場をお借りして少し感想を述べたいと思っております。</p> <p>今年は、事前学習も含めて2回実施したのですが、当初の定員64名からさらに増員していただき、抽選で小学3年生から中学3年生の児童生徒にも来ていただきました。毎年、継続して来ていただいている方の中には積極的な発言や面と向かって話をするのが恥ずかしい、といった児童生徒もおられました。今年自信が見えてすばらしい結果が見られました。これまで見てきて、かなりの成長を感じましたし、次第に手取り足取り教えることなく皆さん積極的に自分から英語のセンテンスを作ったり、自分から英語でお話をするということがどんどんできるようになってきました。関係者の皆様にお礼を申し上げるとともに、これからも是非よろしく願いいたします。</p>
市長	<p>ご報告ありがとうございました。コロナ感染症が一旦は落ち着くという情勢なので、海外との交流も徐々に戻していきたいと思っております。他にはございますか。</p>
教育長	<p>重点事業の20番（不登校児童生徒支援事業）ですが、これは特色ある事業として、他の市町村では見られないような取組になっております。数年前までは、4名の支援員の配置でしたが、現在は12名の配置になっています。特に、夏休み明けの子どもたちの不安定さが増して、自殺といった問題も危惧されている昨今でありますので、このような支援員の方々に活躍していただく機会が、今後も増えるのではないかと思います。また、特に各中学校に必要なだと思っておりますので、さらに増やしていく必要があると思っております。この事業をさらに活性化させていければと思います。以上です。</p>

市長	今の意見に対して何かございますか。
学校教育課長	ありがとうございます。不登校児童生徒支援事業につきましては、スクールライフサポーターという形で令和2年に4名を4校に配置する形を取りまして、学校には行けるけれども教室に行けない児童生徒の対応をしており、会計年度任用職員を配置させていただきました。現状は、12校に12名という形を取っております。不登校につきましては、喫緊の課題ととらえておりますので、このような施策を推進しながら、児童生徒に寄り添いながら、最終的には社会的に自立していけるようになってほしいと考えております。
教育長	実は今のスクールライフサポーターですが、九州都市教育長協議会の中でも、児童生徒に関する事案が議題になり、大分市が実施しているスクールライフサポーターの取組を意見交流の中で発表いたしました。その後、宮崎市が大分市を参考にそれを取り入れました。これは本当に効果があると考えたようです。私たちにとっても、大きな自信となりましたので、今後も拡充していきたいと考えております。
古城（一）委員	44番「えひめ・おおいた交流事業」でございますが、なかなか面白い試みであると思います。これは今年度だけでしょうか。来年度はまた大分で開催とか、いつまで続ける予定なのか、詳細を教えていただけたら幸いです。
企画課長	企画課の藤田と申します。この事業は昨年度から実施をしております。昨年度は愛媛県の児童を大分市に迎え入れております。今年度は実行委員会を立ち上げて実施しましたので、実行委員会としては、初めての開催になりますが、実際は通算2回目の開催でございます。参加者の反応や事業の結果が良かったので、次年度以降も継続的に実施していきたいと考えております。
古城（一）委員	これは愛媛県南予と書かれておりますが、松山市は入っていないという認識でよろしかったでしょうか。
企画課長	はい。松山市は入っておりません。松山市よりも西側の海岸沿い南予地方の9自治体が入っております。
古城（一）委員	わかりました。ありがとうございました。

市長	<p>愛媛県の中でも南予地方もちろん大事ですが、徳島県や香川県の方々の九州に対する関心を高めることも大切だと思います。愛媛県の東側は九州に目が向いていると思います。</p> <p>他にございますでしょうか。</p>
岡田委員	<p>15番（中学生学校給食費無償化事業）の中学生学校給食無償化事業についてですが、給食費の無償化は子どもや家庭を積極的に支えることになるので私は重要な事業であると思います。教育費負担軽減に関して、42番の「子どもの学習支援事業」は中学生を対象にしているということですが、大分市のホームページを見ましたら、それぞれの中学校区に様々な指定学習塾があることがわかりました。子どもたちの学力を向上させるための機会を提供するという意義や、またそれが大分市の学力向上につながるという点で、非常に重要な事業であると思います。私は、塾は学校での学びを補完するものだと考えております。限られた財源の中ではありますが、学校の設備とか先生の執務室等の環境整備も優先度が高いと思いました。</p>
市長	<p>経済的に支援が必要な子どもが対象ということですが、事務局から何かありますか。</p>
生活福祉課長	<p>生活福祉課の尾上です。この事業は、貧困の連鎖を断ち切るということで、保護者の最終学歴が中学校卒業や高校卒業の家庭の子どもが高校まで進学していないという状況が見受けられましたので、生活保護受給世帯と就学援助を受給されている世帯を対象にしているということです。</p>
市長	<p>学校での教育環境のさらなる充実、教育をどうしていくかというお話でした。貴重なご意見ありがとうございました。「大分市教育大綱・教育ビジョン」関連事業について、協議を行いました。事務局は本日いただいた様々な意見を整理して、今後の取組につなげていくようお願いします。</p> <p>それでは皆様、ご協力ありがとうございました。ここで事務局にお返しいたします。</p>
企画部長	<p>ありがとうございました。以上をもちまして、令和5年度第1回大分市総合教育会議を終了いたします。次回の開催日程や議題等につきましては、事務局で調整させていただき、改めてご連絡をさせていただきます。皆様、本日は誠にありがとうございました。</p>